

# 中世期・近世期日本語資料に基づく日本語史の再構築

竹村 明日香 / TAKEMURA, Asuka

文教育学部言語文化学科

■専門分野 日本語学  
■キーワード 日本語学、音韻史、キリシタン資料、方言

連絡先 takemura.asuka@ocha.ac.jp

## 研究内容

### ■概要（背景・目的・内容）

中世のキリシタン資料や近世の方言資料（京阪方言や九州方言）を主に用いて、日本語史の再構築を行っている。特に音韻や語彙を中心に考察する。

キリシタン資料（とりわけローマ字本）を用いた音韻研究は、すでに先行研究の蓄積も多いが、それらの中には「誤植」や「解釈不可」として残されてきた問題も少なくない。それらを今日の音声学・音韻論的見地から再解釈し、日本語音韻史に新たな知見をもたらすことを主な目的とする。

また方言研究では、近年特に注目を集めている上方落語を資料とし、それらの中に見える近世～近現代の京阪方言の変遷を追っている。

### ■応用・将来展望

キリシタン資料の音韻研究では、当該資料での解釈を提示するだけに止まらず、「他資料・他の時代でもこれらの音韻現象が確認できるか」といった視点でも考察し、音韻現象の通時的普遍性を追求する予定である。

また方言研究では、近代の上方落語の調査を通して、近世～近現代にかけて大阪方言がいかに変化したかを明らかにする。これらの「話芸における方言」の研究を通して、いずれは芸能研究者や落語家とも共同研究を行い、一般の落語愛好家にも益するような知見・データの公開を行いたいと考えている。

### ■活動実績

- ・竹村明日香「上方落語を用いた近現代京阪方言の総合的研究」（2016-2017 年度科学費【基金】若手研究（B））
- ・竹村明日香「ローマ字本キリシタン資料の偏在的音分布から再検討する日本語形態・音韻論史」（2013-2014 年度科研費 研究活動スタート支援）
- ・竹村明日香「ポルトガル・スペインのローマ字版キリシタン資料に基づく日本語拗音節の研究」（2011 年松下幸之助記念財団）

## 主要研究成果

- ・竹村明日香「『上方はなし』コーパスを通してみる京阪方言語彙—近世上方語及びナラン・イカン・アカンの諸相—」『国語学雑誌の研究』35、23-40 頁、2016.3
- ・竹村明日香「『日葡辞書』の開拓長音表記とアクセントの相関—漢語の例を中心に—」『国文』122 号、1-15 頁、2014.12
- ・竹村明日香「九州方言工段音節の再検討—中世日本語工段音節の再構に向けて—」『日本語の研究』9 巻 2 号、16-32 頁、2013.04
- ・竹村明日香「『日葡辞書』の開拓長音」『国語国文』81 巻 3 号、1-26 頁、2012.03
- ・竹村明日香「ローマ字本キリシタン資料の才段拗長音表記—抄物の表記との対照を通して—」『語文』96 巻、57-70 頁、2011.06
- ・竹村明日香「疑問文データベース作成に関する中間報告—中世日本語資料を中心に—」金水敏編『日本語疑問文の通時的・対照言語学的研究』研究報告書、大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国立国語研究所、1 巻、117-125 頁、2014.03
- ・竹村明日香・金水敏「中世日本語資料の疑問文—疑問詞疑問文と文末助詞との相関—」金水敏編『日本語疑問文の通時的・対照言語学的研究』研究報告書、大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国立国語研究所、3-19 頁、2014.03
- ・岡島昭浩・森勇太・金泳・竹村明日香・坂井美日「電子化が望まれる近代語資料探索—日本語史を研究する大学院生の報告から—」田中牧郎・岡島昭浩・小木曾智信・小野正弘・小島聡子・島田泰子・朱京偉・高田智和・張元哉・陳力衛・近藤明日子・須永哲矢『近代語コーパス設計のための文献言語研究成果報告書』、大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国立国語研究所、27-35 頁、2012.10